



5 銀製鳳凰図花瓶 二代海野美盛・海野清 一对

大正六年（一九一七）

（本体）銀・毛彫、（台）木製彩色

本体各径一九・三、高四一・二

毛彫と平象嵌によって、綬を啜えて向かい合う鳳凰とその周囲に草花、土坡を表した銀製花瓶。それらの図様の出典は正倉院宝物であるとみられ、鳳凰は《鳥獸花背八角鏡》（北倉四二）の鏡背文様を、その他の文様は《銀壺》（南倉一三）、《漆胡瓶》（北倉四三）などから翻案したと推測される。しかし、文様は単なる模倣にとどまることなく、鳳凰の羽毛の線刻にみられる毛先の先細った表現などに、明治期の彫金家が到達した高度な技術が認められる。また、付属する台は床脚に縹彩色をほどこして鋳を打ったもので、これも同様に正倉院宝物の几に着想を得て制作したものであろう。本作の底裏には「海野美盛謹刻」の刻銘のみであるが、箱書に海野清の名があることから、両者の共作あるいは海野清が制作を補助したものと考えられる。大礼を祝して大正六年（一九一七）に公爵島津忠重より献上された。

二代海野美盛（一八六四～一九一九）は彫金家・海野盛寿の子として東京に生まれ、伯父である海野勝珉に師事、絵を酒井道一、河鍋暁斎のほか、西洋彫塑を小倉惣次郎に学んだ。明治三十一年（一八九八）には東京美術学校教授となった。海野清（一八八四～一九五六）は海野勝珉の四男で、同校金工科を卒業後、大正八年に同校助教となり（昭和七年に同校教授）、昭和三十年（一九五五）には彫金家として初の重要無形文化財保持者に認定された。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan